

よろこび

日蓮宗 顕聖会

本山 妙顕寺
長春山 本誓寺

『日蓮聖人との対話』十一 (感応対談)

貫首 齊藤 日軌

(問者) 季節は春になり北の峯の雪も明るい光に樹林を渡る風も心地よい日々が続きます。しかし息子の文星が去った悲しみは未だに癒えません。私は夜呼吸を整え心も整え、お題目を静かに唱え心を鎮め文星の霊体、意識、魂に光を送っています。彼は光輝く存在に次第に成長してくと思っています。それだけが今私ができることだと思っています。日蓮聖人様こんな私のあり方で良いでしょうか？

(日蓮大聖人) 私は祈る時に南無妙法蓮華経と唱えよと申しています。本仏釈尊すなわち宇宙の根本的な意識とあなたたちが一体になるように願って、お題目を唱えなさいと勧めているのです。サツダルマブンダリカへのサツダルマとはありてあるもの、過去にも現在にも未来にもあり続ける大宇宙の根本意識である。

あなた達の心は根本意識から分かれてきてあなた達の意識体中に入っている本仏の心である。人間の生命というものはそれは一つのものであって分離はない。息子の命とあなた自身の命は一つである。だからあなた自身の命は中の神仏の命を通して祈り光を与えなさい。祈りがあなたの中の光となっていく。私はこの息子を観心本尊抄に「所化以て同体」仏と私たちが一体であると



説いているのである。妙法・サツダルマとは宇宙の根本存在、根源的な意識エネルギー体です。それは神とも言える存在である。神が私たちの意識に仏性として内在していると言うことなのである。あなたは、悲しみが拭えないと申しているが、東北の大震災でも小学校生中学生高校生またお父さんお母さんおじいちゃんおばあちゃん多くの尊い命がなくなりました。そのなかで、誰一人一人死にたいと思つた人はいませんでした。誰一人一人死にたいと思つた人は、失った人々への悲しみは一体どこから来るか。それは、去った人々への愛からくるのである。愛するがよい愛するがよい。その愛の根源を訪ねてみなさい。そこには神の永遠の安らぎがある。光のよるこびがあるのです。我が愛する弟子達よ神仏の光に到達せよ。神仏の慈悲に至れ。神仏の歡喜に至れ。そこに永遠の救いがあるのです。

日蓮聖人のお言葉

我が愛する弟子達よ神仏の光に至れ。神仏の慈悲に至れ。神仏の歡喜に至れ。そこに永遠の救いがあるのです。

